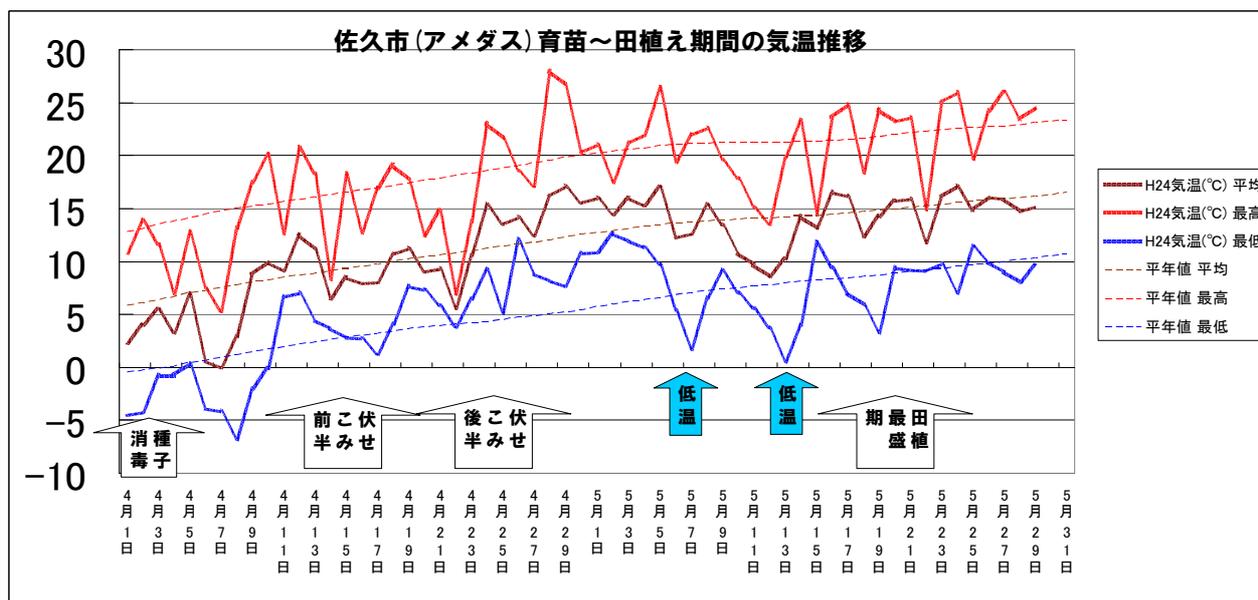


水稲 6月～追肥前までの管理（平成24年度版）

平成24年6月
佐久農業改良普及センター



1 水稲の育苗状況、田植え状況について

(1) 育苗～田植え時期の状況

- ・浸種の水温不十分による発芽不揃いが一部であった。
- ・種子消毒時の低温、及び育苗中の高温管理によりもみ枯細菌病が一部地域で発生。
- ・連休以降の低温により、ピシム菌による急性萎凋症状(ムシ苗)の相談が多かった。
- ・田植えの進み具合は平年並み。5月20日が田植えの最盛期。
- ・5月12日以前に田植えしたほ場では葉先が白く枯れている。
- ・藻類の発生が高温の日に目立つようになってきた。

2 今後の管理について

(1) 赤い藻について

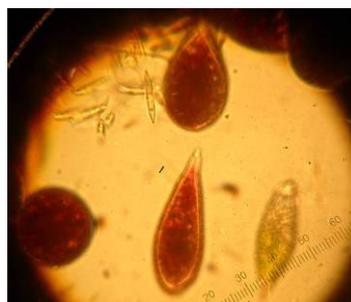
- ・赤い藻のようなものが発生していますが、正体は「ミドリムシ」です。

富栄養化した池や田で発生しますが、特に問題はありません。

どうしても気になる方は、かけ流したり、落水する方法がありますが、除草剤の効果が落ちますので、できればそのままにしましょう。



左)風下側が赤くなった田
右)掬って顕微鏡で見たところミドリムシでした



(2) 水管理について

- ・未分解のワラなどが多い場合は、ガスの発生多く、根が黒く腐敗。
→ガス抜きにより、健全な白や茶色の根を。
- ・分けつを確保するため、浅水を基本に。(水利の関係あるが)
有効分けつ 25 本早期確保 →確保されたら中干し(根の健全化、倒伏防止等)後述

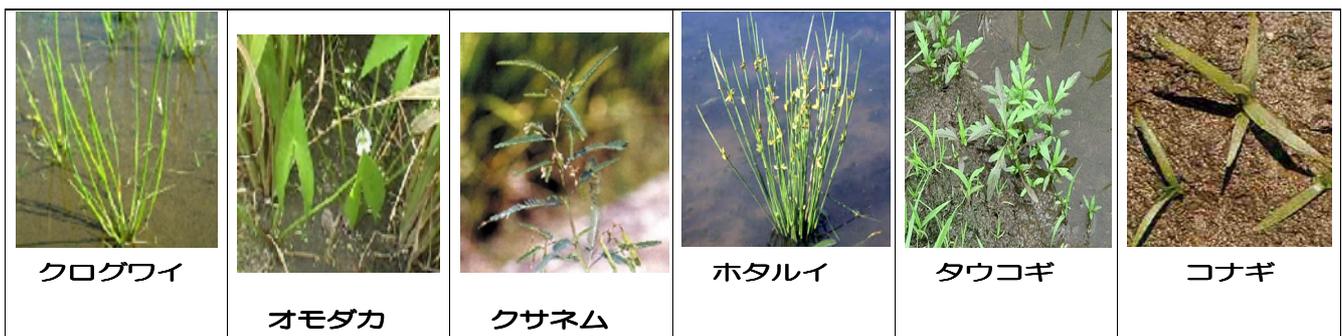
(3) 残草対策について

ア ノビエなどの一年生雑草

- ・入水、代かきから雑草の生長は始まる→いかに早く処理層を作るか、壊さないか。

イ 残った雑草（オモダカ、ホタルイ、クログワイ）が多い場合（ヒエは除く）

- ・草種を確認し（分からなければ JA や普及センターに持ち込み）、
中期剤を雑草の発生はじめに散布する。大きくなってからでは効きません。
除草剤によっては落水して散布するものもあるので注意！
- ・秋起こしにより、オモダカ、クログワイの塊茎を凍みさせる。



(4) イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ対策について

○イネミズゾウムシ

既に畦から出てきています。苗箱施薬していればそれほど心配ありませんが、
生きているか確認しましょう！

確認方法 稲株にいる成虫を水に落とす → 泳ぎだす → 生きてる
→ 沈む → 死んでいる
☆1 株に何頭も生きている成虫がいる場合は、粒剤等の追加防除。

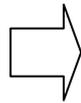
○イネドロオイムシ

【イネドロオイムシの生態】

成虫で越冬（竹・ススキ等）→イネの葉食害→6月上中旬 産卵→入梅以降 孵化
→幼虫が食害 6月下旬～7月 → さなぎ イネの葉の上に白い繭を作る
→7月下旬頃から成虫となり、越冬地へ

【効果的な防除方法】

○防除適期は幼虫が発生し始める前！ 毎年発生する田は、6月中下旬になったら
予防的に散布。



(5) いもち病防除について

- ・いもち注意報が発生した場合は、販売先と相談して早めに葉いもち防除（予防）を検討します。
- ・耕種的防除として・・・けい酸加里散布も有効

(6) けい酸加里の散布について

倒伏防止、根の発達、受光体勢の改善→登熟向上

けい酸加里 20～40kg/10a 出穂45～35日前（中干し前）に散布

☆春に施用している場合、「水田土づくり」等総合土づくり資材を施用している場合は不要です。

(7) 中干しについて

中干しの目的

- 1) 過剰分けつの抑制
- 2) 根の健康管理
- 3) 耐倒伏性の向上
- 4) 秋の作業効率の向上

中干しの時期、注意点

- 1) 時期は6月中旬から7月上旬。**有効茎数**が確保されたら、ただちに行う。

葉が3枚以上の茎で 20～25本/株 コシヒカリ

- 1) 幼穂形成期（出穂の約25日前 **8月10日出穂なら7月15日頃**）前までに終わらせる。
- 2) 圃場全体を見渡して、**土の表面に2mm程度のヒビ**が入り、足跡が残る程度に干す。干しすぎると根が切れてしまい、かえって収量を落とします。その後の生育に悪影響が出るので注意する。（中干しの難しい圃場では間断灌漑とする）
- 3) 稲の葉色が濃く過繁茂の田、湿田、生わら施用田は中干しを確実に行き、コンバイン収穫をする田は排水溝を作るなど、作業効率を良くするように心掛ける。